



ほぼ週刊 輝けとわに 第363号

2024.4.22

〒247-0005 横浜市栄区桂町84-14 TEL : 892-2155 FAX : 892-9241

横浜市立本郷中学校

ホームページ <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/hongo/>

校長 湊 浩一

【学校教育目標】 自ら学び ひとつつながり しなやかに未来を拓く人

【学校スローガン】 あ（挨拶） せ（清掃） か（感謝） け（けじめ）

部活動考 その2

校長 湊 浩一

今日は、朝日新聞の高校野球メソッドから、^{めいとくぎじゆく まぶちしろう}明徳義塾の馬淵史郎監督の話を紹介したいと思います。馬淵監督は、松井秀喜選手を5打席連続で敬遠したことで有名になりました。そのときは監督3年目で2回目の甲子園出場でした。初戦で^{せいりよう}星稜（石川）と対戦しました。明徳は4安打しか打てませんでした。7安打の^{せいりよう}星稜に3対2で守り勝ちます。5打席連続で敬遠は反則ではありませんから、明徳にとってはナイスゲームのはずです。しかし、甲子園球場は^{ほうがんびいき}判官鼻眞の聖地のような場所です。試合後、ヤジにかき消され校歌が歌えず、宿舎には3千本近い抗議電話がかかってきたそうです。この試合以降、監督にはヒールのイメージがつきまといまいます。この試合を振り返り、「こんな大騒ぎになるなら、やるんじゃなかったというのが正直な気持ち。バッシングされるとは、考えてもなかった」と語っています。また、「作戦ってというのはね、自分が有利な時はいらぬ。自分のチームが相手より劣ってると思ってるから、作戦が必要なわけよ」とも話しています。勝ちたいから、真剣勝負だから、「松井は敬遠」という作戦を立てました。それだけの覚悟があったのでしょう。「今でも作戦としては間違っていない」と言っていました。

また、「丸刈りは強制していないが、髪を伸ばす必要はないと思っている」と話しています。明徳は全寮制で、床屋や美容院が学校の周りにないという理由もあります。そして、髪を伸ばすのが大丈夫な学校は、それはそれでいい。明徳は全寮制で丸刈り。これも一種の多様性だという考えです。たしかに、学校も会社も「うちはこちらですよ」と事前に説明します。丸刈り全寮制が嫌なら、明徳を選ばなければいいだけの話です。自由なことが多様性のように思われがちですがこれもひとつの多様性です。多様性とは、自分と違うものを認めることではないでしょうか。

さらに、ネットで情報が頻繁に入ってくる時代になり、頭でっかちな生徒が増えたと感じるそうです。タブレットが一人1台貸与されているため、対戦チームが決まったら、相手のビデオを全員で共有できるのは便利だと認めています。ただ、突然、選手の打撃や投球のフォームが変わることがあるそうです。理由は、プロ選手の動画を見てまねしているからです。「それでは、レギュラーにもチームの戦力にもなれん」と説明し、なおさせるそうです。すぐに結果を求めるため、辛抱して練習ができなくなっている。ですから、選手には「野球というのは、ある日突然、上手になる」と言い聞かせるそうです。僕も何回か「輝けとわに」に書きましたが、ある日突然勉強できるようになったり、運動が上手になったりすることがあります。本人にもわからないのですが、何かを^{つか}掴む瞬間があるのです。ただ、その瞬間は^{あせ}努力の積み重ねがあつてのことです。なんとなく^{あせ}掴めるものではありません。これが、努力の上に花が咲くということです。大人は「ある日突然」がわからずに^{あきら}焦ってしまい、子どもは「ある日突然」が待てずに諦めてしまいます。本中生の皆さん、その日がいつ来るかはわかりませんが、「ある日突然」がやって来ることを信じましょう。そして、その日がいつ来るかわからないからこそ、努力は必要なのです。